

「ピンク」レンジャーは「お嬢様」か

—子どものジェンダー認識形成と特撮ヒーロー/ヒロイン像—



「ジェンダー(gender)」という言葉を知っていますか。社会的な位置づけとしての性を生物学的な身体の性(sex)と区別して示す単語として誕生した言葉で、平たくいうと「男の子らしさ」や「女の子らしさ」のことを指します。身体の性が生まれたときには決まってしまうのに対し、ジェンダーは生まれてから徐々に身に付けていくものであるといわれています。みなさんが幼いころから見ているテレビも、そうしたジェンダー形成に大きな影響を及ぼしていると考えられています。そこで、今回は多くの子どもたちが見ている特撮戦隊ヒーロー番組を中心に、そこに描かれている「男の子らしさ」や「女の子らしさ」についてみなさんと考えてみたいと思います。

若松孝司 WAKAMATSU Takashi

愛知淑徳大学 教務部長/交流文化学部教授

名古屋生まれ。ジェンダー論および国際関係論(中南米政治)専攻。名古屋大学法学部卒業。同大学院国際開発研究科終了。愛知淑徳大学交流文化学部教授。前愛知県男女共同参画審議会長。性別役割分業やジェンダー認識の形成について、男性ジェンダーの視点から検証することを課題としている。ジェンダー論に関する主な著作に「ジェンダーフリー・パッシングからワーク・ライフ・バランスへ」「ピンク」レンジャーは「お嬢様」か:子どものジェンダー認識形成と特撮ヒーロー/ヒロイン像「LGBT 今昔」がある。



日時: 11月24日(日) 14:00~15:30
会場: 河合塾名古屋校 50B教室